

会報

## ゆかり

## 第31号

発行日:2018年6月1日  
 発行:鹿児島純心女子短期大学  
 同窓会ゆかり会  
 〒890-8525 鹿児島市唐湊4-22-1  
 TEL・FAX (099) 255-7655  
 E-mail jyukarikai@ybb.ne.jp  
 U R L http://www.geocities.jp/jyukarikai  
 編集:ゆかり会事務局



名誉会長  
 平山 久美子 (学長)



## 純心の絆—「マリア様 いやなことは私がよろこんで」

本学の同窓会は、最初の卒業生を送り出した1962年に創設されましたので、今年で57年の伝統を刻むことになります。また、この間卒業した卒業生の数は、皆さんを含めると約17,000名を数えることとなります。

この卒業生たちの絆(つながり)の強さは、多少、年度によって強弱はあるようですが、やはりいろいろな所でつながっているなど感じています。そして、お互いの頑張り元気づけられたり、互いに声を掛け合ったりして、助け合っている様子を見聞きしております。

私は時々、鹿児島をはじめ東京支部、大阪支部、福岡支部、および奄美支部の同窓会の集いに参加させていただくのですが、皆様の心の中に共通して「マリアさま いやなことは私がよろこんで」という学園標語(創立者江

角ヤス先生)が息づいているのを感じております。例えば、ある方がこんな風についておられました。「PTAや町内会の役員などを決める時、皆さんが尻込みしてなかなか決まらないような場面で、ふと、この言葉が浮かんで、『はい、私がやらせていただきます』と手をあげている自分がいるのですよ」と。また、60代、70代の卒業生の方が、民生委員など地域の皆さんのために役に立つ仕事をかなりの方がなさっておられると感じています。卒業して40年、50年経った方々のこのような活躍を耳にする時、純心の教育はやはり卒業生の中に生きていて、本人も気づかないうちにさりげなく、「地の塩、世の光」になっておられると感じ、卒業生の皆様に心から感謝しています。

また、去る2月17日に本学の食物栄養専攻が開設されて50周年記念の年に当たり、「食物栄養専攻開設50周年記念ホームカミングデー」が開催されました。その時、このキャンパスに210名を超える卒業生たちが集いました。その内容は記念式典、5名の卒業生に

よるパネルディスカッション、および昼食懇談会でしたが、その日は一日中、久しぶりに旧友たちに出会った喜びと笑顔があふれておりました。そして、特に5名のパネラーのご活躍ぶりに元気づけられました。

このように同窓会というものは、やはり、何年経っても多くの人にとって人生を潤す役割を果たしていると思います。また、同窓会に集うことによって、新たな出会いがあり、豊かな人間関係が広がっていくのを目にいたします。

どうぞ皆さんも、鹿児島純心女子短期大学の「ゆかり会」の一員とされますので、これから、この57年の歴史を持つ17,000人の仲間たちと共に、社会においても助け合って「純心の輪」を広げていかれますように願っております。

(平成29年度 ゆかり会入会式挨拶より)

